ARTIST to artist

未来の芸術家たちへ 23人の絵本作家からの手紙

エリック・カール絵本美術館ほか著
前沢明枝訳 東京書籍 2017

～２３人の絵本作家たちそれぞれのこれまでの道のり～

今年の読書運動のテーマは **「道」** です。
道、人によってそれぞれ解釈があると思いますが、
人間はみんな生まれてから死ぬまで、人生という名の道を生きている
とわたしは思っています。そして、その人生という名の道は、
上り坂や下り坂、回り道、近道、くねくね道…いろんな道、つまり
いろんな人生があると思います。そして、わたしもみなさんも
まだその道の途中を歩いているわけです。
今月はそんな人生を道に例えたこんな本
『Artist to artist 未来の芸術家たちへ
23人の絵本作家からの手紙』を紹介します。

この本は、子どもが初めて出会う芸術である「絵本」を、世に広く伝えるために、２００２年にできた美術館、「エリックカール絵本美術館」（一度行ってみたいなぁ・・・！）によってつくられた本です。将来、これから絵本の道へ、芸術の世界の道へと進みたいすべての子供たちのためにつくられた本です。安野光雅やエリック・カールやレオ＝レオニ、モーリス・センダック、みんなが一度は読んだことある絵本を描いたあの人たちの、それぞれの人生という名の道のり。今の絵本作家になるまでには、今までどんな風に思い、生きてきた、歩んできたのかをそれぞれ語ってくれています。美術の勉強は大学に入ってから学んだという人、大好きな画家の絵を真似ることから始まった人、子どもの頃から絵を描く仕事をするんだと心に決めていた人、子どもの頃は病弱だった人、筆をにぎって生れてきたんではないかと思うくらいずっと絵を描き続けてきた人など…。２３人それぞれいろんな道をたどってきていますが、共通しておなじことがひとつあります。それは絵を書くことのよろこび、絵を描くことへの愛や執念をもっていること。これは人生という名の道を歩くうえでわたしは一番大切な持ち物なんじゃないかなと思います。（もちろん努力、がんばることも大事ですが。）わたしは母からそれをずっと言われてきました。（だからこそわたしは今ここ図書館で働いています。小さな頃からわたしは、いつでも本がすきなだけ読めるたくさんの本に囲まれた図書館という場所がとても好きでした。今もそれは変わりません。）何かが好き、愛しているものがあるというのはとてもすばらしいことだと思うし、大事にしてほしいなと思います。
きっとそれは、努力への原動力にもなります。
そして、その思いをずっと手放さないでいてほしいと思います。
残念ながら何人かは亡くなってしまわれた方もいますが、今現在も活躍されている絵本作家たちのこれまでの人生の道のりをたどってみませんか？
芸術家になりたい人も、そうでない人も！夢に向かって道を歩んでいるみんなの背中を後押ししてくれる１冊です！